

ありて

わたしの未来はわたしが創る

2025.3
24号

特集

男女共同参画の視点から考える防災

～ 令和6年能登半島地震を受けて ～ p2

- 高岡市の男女平等・共同参画推進の取り組み ほか p6
- セピア色の写真から／津幡 敬子さん p7
- センター活動登録団体紹介 ほか p8



「ありて」は自分の力で問題を解決していくイギリスの童話「アリーテ姫の冒険」の主人公の名前です。



作品名 「希望の光に包まれて」
作 者 富山県立福岡高等学校
美術部1年 吉岡 蘭

男女共同参画の

視点から考える防災

～令和6年能登半島地震を受けて～

高岡市男女平等推進プラン

基本目標1

あらゆる分野において、
男女が平等に参画できる環境づくり

令和6年元日の能登半島地震で、高岡市も大きな被害を受け、多くの住民が避難所などに避難しました。

災害時は、多様な人たちが一緒に行動することから様々な問題が生じます。例えば、避難所において女性への配慮がされていないと、女性用品や下着の不足、間仕切りや更衣室、授乳室がないなどの問題が起きることがあります。これらの問題に対応するためには、防災活動においても男女双方や高齢者障がい者などのニーズの違いに配慮し多様な視点で考える必要があります。

東日本大震災をはじめとするこれまでの災害においては、様々な意思決定過程への女性の参画が十分に確保されず、女性と男性のニーズの違いなどが配慮されなかった課題が生じていました。このことから、内閣府男女共同参画局では、令和2年5月「災害対応力を強化する女性の視点」男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」が策定されました。そこには基本的な考え方である「7つの基本方

針」と平常時の備え、初動段階、避難生活、復旧・復興の各段階の取り組みべき事項が示され、各自自治体において女性の視点に配慮した取り組みが求められています。

高岡市では、男女平等・共同参画社会の実現に向け策定した「男女平等推進プラン」の基本目標の一つに掲げる「あらゆる分野において、男女が平等に参画できる環境づくり」に基づき、「地域防災における男女平等・共同参画の推進」に取り組んでいます。また、令和6年7月に避難所運営マニュアルを改定し、防災施策において男女共同参画の視点に配慮するよう取り組みを進めています。

地域の防災活動に男女双方が参画することは、多様な視点が反映され、地域防災力の向上に繋がります。いつ起こるか分からない災害に備え、男女共同参画の視点から災害に強い地域づくりについでできることを一緒に考えてみましょう。

男女平等・共同参画社会は災害に強い！



女性防災士
(地域女性ネット高岡会長)
米澤 陽子さん

能登半島地震や豪雨の水害時に、避難所運営に携わられた防災士の米澤陽子さんにお話を伺いました。

■地域をどう良くしていくか

防災士の資格を取得したのは2020年で、防災士になるという選択は、これまで進んできた「地域を良くする」という道の延長上にありました。

2007年に国吉地域女性の会会長に、2012年に国吉校下社会福祉協議会会長になり、福祉関係や連合自治会の方々との繋がりが増え、地域で開かれる会合の場で意見交換することで連携が取れるようになりました。

2021年に地域女性ネット高岡の会長となり、高岡市の審議会委員などになったことで、高岡市の動きや流れを知ることができ、それが今の地域活動に活かされていると考えます。

■防災士の活動と地域との連携

防災士の存在は2011年に発生した東日本大震災で知りました。当時の私は、防災士というのは市の危機管理担当や消防の方たちになるものと考えていましたが、「災害対応力を強化するためには女性の視点が必要」という考えに至り、防災士の資格を取得することにしました。

防災士としての主な活動内容は防災講座の開催です。住民への防災知識の普及・啓発ですが、自分の持つネットワークを活用して多くの参加者を募り、それが人との繋がりがや連携にも結び付いています。

一方、私は複数の会合に参加していますが、女性は私一人の場合もあり、「何かを決定する場に女性がいらない」というのが現状です。地域に女性の声を届ける人が増えれば、男女それぞれの意見が反映される社会になっていくと思います。

■能登半島地震を経験して

2024年元日の夕方、自治会長から「避難所を開設したので来てくれ」と連絡が入り、里山交流センターに向かいました。

前年の7月に発生した線状降水帯による豪雨時に国吉小学校で防災士として避難所の運営に関わっていたため、今回の地震では、その経験が活かされました。

避難所では避難してきた人の名簿を作成し、人数を把握しました。また、ホールの机を撤去し、床にござを敷いて滞在スペースをつくりました。

そんな中、赤ちゃんを連れた避難者におむつ替えの場所を求められ、風呂場の畳敷きの上がり場をおむつ交換所とし、張り紙をして案内しました。また、女性トイレからアラームが鳴ったときにすぐに中に入って対応しました。このようなことから、避難所には女性スタッフの常駐や相談窓口を設けるなど、女性避難者が安心できる環境を整える必要があると思います。

その他、避難所運営に携わって感じたこととして、

◆ 備蓄品の飲用水（2人入り）には紙コップを用意するか、一人分サイズの水が必要

◆ ライフラインが止まった場合を想定したトイレ対策や備蓄品を考える

◆ 体の不自由な方や高齢者などには段ボールベッドは必需品

また、災害に備えて私たち一人ひとりができることとして、

◆ ハザードマップを確認して、自分の住んでいる地域の危険な区域を把握し、避難所の場所も確認する

◆ 避難するときに必要な持ち物を準備しておくこと

などです。

能登半島地震を経験して災害に対す

る住民の意識が大きく変わり、危機感が強まりました。防災講座では、圧倒的に「自分の身を守るための術を知りたい」という人が増えました。社会福祉協議会で、地震後に避難所や持ち物などを書いた紙を国吉地区に全戸配布したところ、すぐく重宝してもらえました。今だからこそ、危機管理や防災、減災、被災に関する情報は伝わりやすいと感じています。

■今後の取り組み

★防災講座の拡充を

◆ 学校を通じて子どもたちに啓蒙活動を行い、小さい頃から防災意識を持たせて、「防災に関する知識を増やし技術を身につけることは、より安全な避難活動ができる」ことを伝えたいです。

◆ 女性防災士がもっと増えればよいと思います。防災士の研修において、お互いに経験したことを情報共有し、女性防災士の連携を深めたいです。

◆ 新聞紙で作るスリッパや簡易トイレの組み立てなど、実践・行動に結び付く内容を考えています。

★地域ともしっかり繋がるために

◆ 地域の防災講座などに取り組みながら私自身もスキルアップを図り、地域に女性防災士がいることをアピールしていきます。

◆ 日頃から地域の人が集まる場に参加して人との繋がりを持つことで、災害

時にも女性の意見を言いやすくなると思います。例えば、獅子舞などの伝統行事を活かして、人が集まり繋がる機会を作れないかと考えています。

老若男女が関わって地域を盛り上げ、広げていくことで、災害に強い男女平等・共同参画の地域づくりに結び付くのではないかと思います。

男女共同参画の地域防災



NPO法人Nプロジェクト
ひと・みち・まち

(須賀理事、大坪理事長、佐野理事)

「地域防災」をテーマにした出前講座などを行っているNPO法人Nプロジェクトひと・みち・まち（通称Nプロ）の皆さんにお話を伺いました。

■防災活動

まちづくりに女性の視点を活かしながら、様々な地域課題に取り組んでいたところ、2011年に東日本大震災

が発生しました。避難所では、女性の仕事は高齢者や子どもとの世話と炊き出しに限られ、昔ながらの固定観念や先入観で役割分担されてしまい、避難所全体の運営に関わることはできなかったと聞いています。普段できていないことは災害時にできない、つまり、平時時から性別ではなく得意分野で役割分担し、協力することが重要です。

東日本大震災で全国の女性ネットワークの働きかけもあり、国の防災基本計画や避難所運営ガイドラインに「女性の参画を推進」「女性専用スペースを作る」「生理用品・女性用下着の女性による配布」などの具体的な対策が盛り込まれました。

このようなことをきっかけに、Nプロは、災害が起こった時に、被災地が教えてくれていることを活かして、同じことが繰り返されないようにしたいとの思いで、被災地で困ることや改善策などをまとめ、男女共同参画の地域防災体制づくりのサポート活動を始めました。

現在は、「地域防災」を活動のメインテーマに位置づけ、「女性が入ることと地域を守る、多様な人が担い手になっていける、そういう社会のしくみを作っていこう」というジェンダー平等の視点で活動しています。

地区や自治会、学校、自治体など、いろいろなところへ出かけていき、

■能登半島地震を経験して

能登半島地震のときは、防災士の資格やネットワークを活かして、物資を集め被災地で必要な物を作るなど、メンバーが個々に活動しました。その経験をNPO内で情報共有し、講座で地域の皆さんに伝えています。

これからは、講座で参加者の皆さんと地震で経験したことや気づいたこと

■みんなの力を活かした地域防災

いきなりすばらしい地域防災体制を作ることはできませんが、防災面でも男女共同参画の重要性を話すことは一人ひとりができることです。まずは、一人ひとりが積極的に家族や町内、PTAなどの小さな集まりで思っていることを声に出して言ってほしいです。それが人から人へと広がっていき、地域での講座の開催や参加に繋がります。そして、様々な立場の老若男女が話し合うことで、それぞれの地域で、自分や家族の命を守る実行力のある「地域防災計画」が作れます。

※ みんなで作った高岡市男女平等推進センターとNプロが協働して、男女共同参画の地域防災体制の地域をぐっと増やしていきたいと思っています。

あらゆる人々の共同参画による地域防災のしくみを構築していくことが、住みよい持続可能な社会の実現に繋がると考えます。

■活動の歩み

Nプロは、持続可能な社会を目指し、生態系や多様性を大事にして、みんなが生き生きと暮らせる男女共同参画の地域づくりに取り組んでいます。ミッションに合えばどんどん会員の提案を採用し、さまざまな活動をしています。具体的には、防災の他に、自転車を活用できるまちづくり、エンディングを考える講座、女性史ブックの制作、DV防止啓発、子どものこれからの教育ワークショップなどを実施してきました。テーマが多岐にわたることから、「NプロのNはなんでもやるのNか？」と言われるくらいです。

Nプロのホームページはこちらから！ イベント情報なども掲載しています。 <https://www.npo-npro.com/>

「まち」をより良くしようとする元気は、「ひと」の人權と多様性が尊重され、心身の健康が保たれてこそです。また、人（ソフト面）とまちづくりの間にはみち（ハード面）も使いやすいうように、みんなの意見が反映されるような形でないと支障がでます。住みよいまちづくりには、「ひと・みち・まち」それぞれが大事という思いで、名前を付けました。

災害は「必ず」やってくる！
安全・安心への更なる取り組み

高岡市危機管理課

に聞く

災害による被害をできるだけ少なくするためには、自助・共助・公助の連携が不可欠です。災害に備える防災対策について、お話を伺いました。

自助
命を守るために自分たちができること

災害時に自分と家族を守るには、どんな対策が必要なのでしょう。

まずは、自分自身（家族）で自分（家族）の命や身の安全を守ることが重要です。日頃の災害に対する備えをそれぞれの方に見つめ直してほしいと思います。

①自宅などの災害リスクを確認しよう

「ハザードマップ」で危険な区域を確認し、自分の住む地域（自宅や職場先など）の災害による被害の程度を前もって知ることが重要です。

ハザードマップ



② 防災情報を収集しよう

災害のおそれがあるときなど、防災に関する様々な情報を提供しています
市防災情報メールや固定電話配信サ―

ビスなどに事前登録するなどして、積極的に防災情報を入手することが大切です。



③避難行動を確認しよう

災害種別ごとの避難場所や避難経路を確認し、災害時に迅速に行動するためには、どのタイミングでどこへ、どうやって避難するか考えておくことが大切です。



④備蓄品を準備しておこう

それぞれ家族構成（子ども、高齢者など）に合わせて必要な物を準備しておくことが大切です。

◆非常持ち出し袋・・・避難する時に最初に持ち出す非常食を入れたリュックサックなど

◆備蓄品・・・災害発生直後から混乱が収まるまでの数日間、自給自足するための物資

家の中の家具の配置の見直しや転倒防止の金具を付けることも重要です。

【共助】地域やコミュニティの人たちが協力して助け合うこと

■地域やみんなで取り組む防災対策はどんなものがあるのでしょうか

自分（家族）の安全が確保できたら、地域、組織、グループの人たちと助け合うことが大事です。災害時に円滑に助け合えるように、日頃から備えることが大切です。

男女共同参画で避難所を運営

避難誘導、避難所の運営などは、自主防災組織や地域住民の皆さんが協力

して行う必要があります。避難所での生活においては、女性などへの配慮も大変重要です。

地域防災力の向上を図る

自治会単位などで積極的に市の出前講座を活用するなど、地域住民と話す機会を設け、地域防災力を高めるために男女が一緒に協力していこうという意識がとても大事です。

【公助】市や消防、県や警察、自衛隊など公的機関による救助・援助のこと

■震災前と震災後で感じた変化はありますか

防災士資格取得者が増加し、出前講座の実施回数も増えていることから、市民の方の防災意識が高まってきていると感じています。この機会に皆さんに防災に関する様々な情報を提供・啓発して災害に強い地域づくりの後押しをしていくことを考えています。

避難所運営マニュアルに女性の視点を追加

避難所での男女のニーズの違いに対応するため、令和6年7月に避難所運営マニュアルを改定しました。出前講座や市の総合防災訓練を通して住民に対して啓発し、平常時から避難所の生活まで男女共同参画の視点による取り組みを進めています。

＜改定内容＞

◇女性専用スペースの確保や女性用品の備蓄

◇避難所の巡回警備は男女ペアまたは男女交互に行う

◇避難所運営責任者に女性を加える、

女性用品配布時の配慮 など

防災士育成への取り組み

出前講座で防災士の資格取得の呼びかけや資格取得費用の助成について周知しています。

また、防災士の役割などについて理解を深め、スキルを身に付けてもらう研修を実施しています。令和6年度は高岡市内全ての防災士を対象としたスキルアップ研修を開催し、同じ地域の防災士相互の連携を図りました。

能登半島地震の経験を踏まえて開始した取り組み

①キーボックスを設置しました

市内の拠点避難所（小学校など）28か所に、地震発生時に市職員及び施設管理者の到着を待つことなく避難所へ入れるよう、震度5以上の揺れを感じると自動解錠されるキーボックスを設置

②初動対応ボックスを設置しました

避難所（公民館や中学校など）に初動対応に必要な水・食料・毛布などの備蓄品が入ったボックスを設置。令和6年度50か所に設置

③災害時の応援協定を締結しました

・支援物資を避難所まで配送する協定（トナミ運輸）

・災害時に法律相談を行う協定（富山県弁護士会）

・仮設トイレのレンタルに関する協定（北陸流通企画）

④届出避難所の登録制度を新設しました

自治公民館など身近な施設を災害時の避難所として登録し、住民が安心して迅速に避難できる場所を確保

取材を終えて

災害による被害をできるだけ少なくするためには、個人としての備え（自助）だけでなく、地域や身近にいる人同士の助け合いと協力（共助）が大切だと感じました。

共助力を高め、災害時にスムーズな対応ができるようにするためには、平常時から地域の防災活動などにおいて様々な立場の人々が参加して話し合い、多様なニーズに配慮した備えをしておくことが大切です。

また、日頃から積極的に地域と関わり、気軽に声を掛け合える環境づくりをしておくことで、地域防災活動においても意見が言いやすくなります。

私たち一人ひとりが防災への意識を高め、日頃から備えや環境づくりをしておくことが、災害に強い地域づくりに繋がります。また、国が示す7つの基本方針や「地域防災における男女平等・共同参画の推進」にさらに近づくことができるのではないのでしょうか。

災害対応力を強化する女性の視点

～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～

「7つの基本方針」

- 1 平常時からの男女共同参画の推進が防災・復興の基盤となる
- 2 女性は防災・復興の「主体的な担い手」である
- 3 災害から受ける影響やニーズの男女の違いに配慮する
- 4 男女の人権を尊重して安全・安心を確保する
- 5 女性の視点を入れて必要な民間との連携・協働体制を構築する
- 6 男女共同参画担当部局・男女共同参画センターの役割を位置付ける
- 7 要配慮者への対応においても女性のニーズに配慮する

高岡市の男女平等・共同参画推進の取り組み

男女平等・共同参画に関する計画

◆高岡市男女平等推進プラン（第2次） 後期事業計画

〔計画期間：2022年度～2026年度〕

基本目標

- I あらゆる分野において、
男女が平等に参画できる環境づくり
- II 仕事と生活の調和が保たれ、
男女がともに活躍できる環境づくり
- III 個人が尊重され、
能力が発揮できる環境づくり
- IV 計画の総合的な推進

◆高岡市DV対策基本計画（第3次）

〔計画期間：2022年度～2026年度〕

基本目標

- I 暴力を生み出さない意識づくりの推進
- II 身近で安心して相談できる体制の充実
- III 被害者の自立を支援する体制の強化
- IV 暴力を許さない高岡ネットワーク

詳しくは、高岡市のホームページでご覧いただけます。

男女平等EXPO高岡2024

と き：令和6年10月25日（金）・26日（土）
と ころ：ウイング・ウイング高岡 1F/4F

高岡市における男女平等・共同参画社会の実現に向け、各種団体や市民の代表で構成する実行委員会が主体となり、市民と共に課題や解決策などについて考える場として毎年開催しています。

本年度は、「男女共同参画による災害に強い地域づくり」をテーマに静岡大学グローバル共創科学部教授の池田恵子先生に講演していただきました。能登半島地震を振り返り、災害時の対応に性別や多様な立場の人々の視点を入れることの重要性や、地域の避難所運営や防災活動は男女双方が担う環境を整えることなど、お話しいただきました。

会場内に、男女平等推進センター活動登録団体の「NPO法人Nプロジェクトひと・みち・まち」、「地域女性ネット高岡」、「ふぁん・ふぁしい・café」のブースを設け、防災グッズ作りや各団体の防災に関する取り組みを紹介し、参加者と交流しました。



ワーク・ライフ・バランス推進事業所

仕事と生活の調和に配慮し、働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組む事業所を「ワーク・ライフ・バランス推進事業所」として認定・支援しています。令和7年1月末現在85事業所を認定。

(株)アキデザイン／(株)イカイ硝子建材／石田工業(株)／一公工業(株)／エスエイチ(株)／(株)開進堂／(有)角玄工業所／(株)狩野建設／上下興業(有)／(有)技建工業／北日本興業(株)／キタムラ機械(株)／(株)協和総商／(株)グランテック／(株)クリオス／(株)クリシマ／(福)くるみ／ケーズメタル(株)／(株)小泉製作所／幸塚汽力工業(株)／(株)コーナンシステムズ／小間印刷(株)／(株)才高／(株)澤工業／(株)三共空調サービス／(医)志貴野会／(有)島田建産／清水工業(株)／(株)翔南産業／昭和建設(株)／(有)新和建設／住友生命保険相互会社高岡営業部／(株)せんだ／相互企画印刷(株)／(有)大開工業／(有)タイショウ／(株)大地／大砥運輸建設(株)／高岡ガス(株)／(株)高岡製作所／(福)高岡南福祉会／瀧根工業(株)／田組(株)／竹澤工業(株)／(株)谷口／タバタ電設(株)／中越ロジスティクス(株)／寺崎工業(株)／(有)藤久／東洋通信工業(株)／(有)長原ウォーターリペア／(有)仁光園／西村工業(株)／(株)日東／(株)早木工業／(福)福岡福祉会／(福)福鳳会／富士コンテクノ(株)／フジサワ電機(株)／(株)フジタ／(株)フタカワ／(株)北栄商会／(株)北酸リプロ／ホクセイプロダクツ(株)／(有)北砥ビルサービス／北日工業(株)／北陸アルミニウム(株)／北陸エレコン(株)／(株)北陸化成工業所／北陸道路標識(株)／(株)北陸リフォーム／(株)本田ししゅう／(株)丸三国土建設／丸進商事(株)／(有)マルタカ防災／(株)瑞穂／(株)ミヤシゲテクノ／(株)宮下組／(株)室屋／(株)安田組／山辺事務機(株)／雄基工業(株)／吉久建設(株)／(株)レクティオ／(株)和田鉄工建設



詳しくは、高岡市のホームページでご覧いただけます。

セピア色の写真から

朗唱の会やブックススタートなど
高岡の文化・福祉に広く貢献

津幡 敬子さん
(一九四三年～)

高岡市内で複数のボランティアグループの立ち上げに携わってきた津幡さん。現在も文化や福祉など、幅広い分野で精力的に活動されています。これまでの歩みと、活動の原点に迫りました。



津幡 敬子さん

【高岡で生まれ育ち、結婚後は夫の転勤で全国各地へ】

高岡市定塚町（現・大手町）で、定塚町郵便局の娘として生まれました。幼少期から背丈が高く、中学・高校はバレーボール部に所属し、学校では目立つ方だったかもしれません。

印象に残っている出来事は、中学3年の受験直前、10人程の編集委員で自主的にクラス文集「ながれ」を作ったことです。そのとき同じメンバーだったのが、のちに「万葉集全20巻朗

唱の会にいざなう会」を一緒に立ち上げることとなる故・玉井晶夫さんです。

高校卒業後は学校事務として就職。24歳で結婚してからは、専業主婦として子育てに専念していました。夫は転勤族で、関西、関東、北海道など、家族で全国を転々とした。

高岡に戻ってきたのは40歳ぐらいのときです。転勤先の各地域ではPTA活動などをしていたので、高岡でも「何かしたい」とは思っていました。県外から戻った私は「旅の人」として扱われ、日中は働いている人が多く、あまり社会との関わりを持っていないまま日々を過ごしていました。

【社会参加への一歩は「婦人の船」、原点は「婦人会」】

転機になったのは、45歳のとき。高岡市内の大学での公開講座で再会した中学時代の恩師からの誘いで、富山県婦人海外派遣事業「婦人の船」に参加しました。中国には「天の半分は女性を支えている」という古いことわざがあるそうです。その言葉通り、女性が社会の重要な担い手となっており、女性の地位向上のために意見を積極的に発言する皆さんの元氣な姿が印象的でした。

もう一つ転機になったのが、帰国後地域の人から富山県婦人会の意見発表会に出ないかと声をかけられ、「婦人の船」に参加して感じたことを「21世紀の夢」という題目で発表しました。

『人生八十年の長寿社会を、私達はどうのように生きているでしょうか。男性の自立や、女性の自立がなされ、豊かな男女共同社会になつていくでしょうか。』※「21世紀の夢」から一部抜粋

この意見発表会をきっかけに、野村校下婦人会に関わるようになりました。婦人会では、たくさん勉強をさせてもらいました。活動自体もとても楽しく、専業主婦だった私にとっては、新鮮かつ刺激的でした。この婦人会活動が発端となり、その後の活動へと広がっていきました。

【「万葉集全20巻朗唱の会にいざなう会」(1998年～現在)】

1989年、高岡市市制100周年を記念して野外音楽劇「越中万葉夢幻譚」が実施されました。多くの市民俳優が出演する舞台に、私たち野村校下婦人會も参加。そこで前出の同級生・玉井さんと再会しました。玉井さんの誘いで、翌年から開催される「万葉集全20巻朗唱の会」で出演者の衣装管理や着付けを手伝うことになり、その数年後に市民によるボランティア・グループ「万葉集全20巻朗唱の会にいざなう会」が発足。玉井さんが会長、私が副会長の一人として活動が始まりました。



越中万葉夢幻譚の参加メンバーと撮影(1992年)

(後列左3人目から)
津幡さん、玉井さん、元市長の佐藤さん

【「高岡らっこの会」(2001年～現在)】

ブックススタートボランティア「高岡らっこの会」を立ち上げたのは、同級

生である故・吉岡隆一郎さん(当時文苑堂書店社長)から、イギリス発祥のブックススタート(赤ちゃんに絵本を読み聞かせる親子のふれあい)活動を高岡でもやってみたいかと声をかけられたのです。「生まれてくる子どもたちが心豊かに育つように」との思いで、市役所や図書館、保健センターなどに掛け合った結果、3か月児健診の際に絵本と読み聞かせをプレゼントすることになりました。初めて絵本の読み聞かせをした赤ちゃんたちも、今は成人を迎えています。「赤ちゃんに読み聞かせ?」と最初は半信半疑だった活動が長く継続されていることは大きな喜びです。

【自立のきっかけをつくり、次世代へと渡していきたい】

1990年には高岡市の広報紙「市民と市政」の音訳を旧高岡市勤労青少年ホームから引き継いで音訳ボランティア・グループ「あかね」を設立。1999年には地域の人たちと「いわせのコーラス」を設立。現在も楽しく活動を続けています。

私自身はあまり難しいことを考えず、なんでも面白がって活動を続けてきました。これは、ひとえに夫のおかげと感謝しています。私の自立を快く応援し、見守ってくれました。

また、いろいろな活動を通して、私自身も楽しく、学ばせてもらいました。一緒に活動した女性たちも自信をつけて、楽しく次々に活躍してくれることと信じています。そして、改めて、女性たちにも心から感謝したいと思っています。

男女共同社会に少しでも貢献できたのでしょうか? そうだとすれば幸せに思います。



高岡市男女平等推進センター 活動登録団体紹介

キュービットTAKAOKA 広域縁結びボランティア

高岡地区広域圏事務組合の婚活支援事業を始めて8年になる社会貢献団体です。高岡市・氷見市・小矢部市の3市にて縁結び活動を行っており、出会いに関する相談やアドバイスなどを行っています。

結婚を希望する独身男女の出会いのお手伝いをする事で、家庭内や地域活動における男女平等・共同参画の実現を目指しています。

キュービットTAKAOKAに登録している方は約72人、ボランティアは18人です。毎月1回の定例会を開催し登録者の資料を見ながらお相手を探しています。昨年度のお見合い件数は約100件です。

3市とボランティアが連携して協力しサポートすることは珍しく、出会いの場や交流の幅が広がり登録者には好評です。

婚活希望の男女を募集します。

ボランティアサポーターも募集しています。

新日本婦人の会 高岡支部

憲法をくらしにいかして誰もが人間らしく生きられる平和な社会をめざそうと、1962年に「ひらつか・らいちょう」や「いわさき・ちひろ」などが呼びかけてできた会で、支部は結成56年を迎えます。女性と子どもを真ん中に「ポストの数ほど保育所を」「子どもの医療費無償化を」など身近な要求を実現しようと署名活動にも取り組み、昨年は給食費無償化の署名活動に取り組む中で、食の安全が大切だと学習してきました。しんぶん新聞を読みあたり、くらしのアイディアを出しあったりして学習し、小さな声も大切に市への要請行動も続けています。また、絵手紙、合唱、オカリナ、小物づくり、健康マージャン、お散歩、パークゴルフ、きものリメイクなど会員の要求から生まれたサークル活動で楽しみながら、生き生きと社会参加しています。

あなたの団体・グループも男女平等推進センターの活動登録団体に登録しませんか？

男女平等推進センターを拠点として、男女平等・共同参画を推進する市民団体・グループの活動を支援します。

高岡市のホームページで、登録方法や現在の登録団体・グループを紹介しています。

～編集員ひとことメッセージ～



◎大川昭子

米澤陽子さんを取材させていただき、男女共同参画社会の力ぎは女性が持っており、女性が社会に積極的に参加し意見を述べることで推進されるものと感じました。そして、防災の知識や技能を学び地域に伝える役割を担う女性防災士は、女性が地区との新しい関係を築く貴重なツールであり、地域のリーダー的存在になる可能性を秘めていると確信しました。

◎下川 叔子

この24号がみなさんの手元に届く頃、高岡の街は暖かな春の風に包まれているのでしょうか。

季節は後戻りしません。それは私たちも同じです。取材を通し、みなさんの「明日」への力強い思い・踏み出した一歩を見聞しました。私たちは決して負けません。前へ、想いを胸に進みましょう。

◎加藤 洋子

能登半島地震により被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます。高岡市内でも特に被害の大きかった地域のあまりの変わりようには言葉をなくします。

地震は数多くの課題を私たちに突きつけました。その解決の端緒の一つでも見つけたい、そんな思いで編集に臨みました。

◎高橋 舞衣

娘の3か月健診で絵本と読み聞かせをプレゼントしてもらった体験が印象的で、高岡らっこの会を立ち上げた津幡敬子さんを取材しました。生い立ちから現在に至るまでの多岐に渡るお話を聞かせていただき、私自身もひとりの市民として地域で活動していく勇気をいただきました。

貴重な機会をありがとうございました。

高岡市男女平等推進プラン情報誌「ありて」は、男女平等・共同参画の推進を目的に、公募による市民編集員が企画・編集しています。

ありて キャラクターデザイン：山崎 可菜さん

「ありて」の感想をお寄せください

発行／高岡市男女平等推進センター

〒933-0023 富山県高岡市末広町 1-7

(ウイング・ウイング高岡 6 階)

電話／0766-20-1810 FAX／0766-20-1815

E-mail／gec@city.takaoka.lg.jp

ホームページ／

<http://www.city.takaoka.toyama.jp/gyosei/gyoseijoho/danjokyodosankaku/3/>

◆QRコードから

◆E-mail／gec@city.takaoka.lg.jp

◆FAX／0766-20-1815

いずれかの方法でお願いします。



「高岡市男女平等推進プラン情報誌 ありて 24 号」は、メールでの配信を行っています。

メール配信をご希望の方は、件名に「ありて メール配信希望」とご記入のうえ高岡市男女平等推進センター宛に空メールをお送りください。